



〔海の状況 (10/16~11/15) 〕

- ・小川地先の表面水温… 期間前半は神子平年よりやや高め (平年差 0.5℃~1.0℃) からはなはだ高め (平年差 1.5℃~) で推移し、期間後半は神子平年並み (平年差±0.5℃) で推移した。(図1)  
※神子平年は、1988年~2017年の神子地先の平均値
- ・米ノ地先の表面水温… 期間を通じて平年よりはなはだ低め (平年差~-1.5℃) から平年並み (平年差±0.5℃) で推移した。(図2)

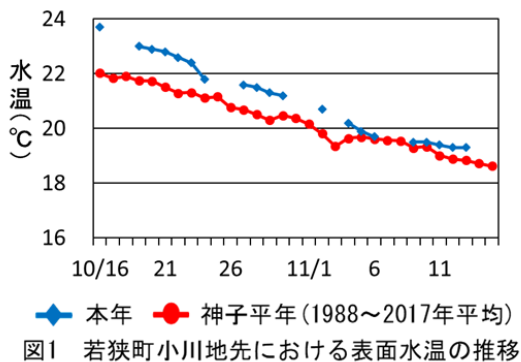


図1 若狭町小川地先における表面水温の推移

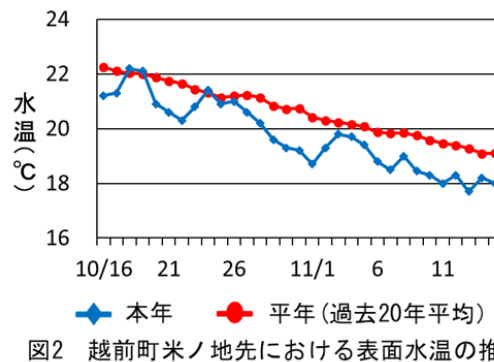


図2 越前町米ノ地先における表面水温の推移

〔若狭湾および周辺海域の海況：10月〕

10月の若狭湾およびその周辺海域の水温分布は、表層(水深0m)では、若狭湾東部沿岸で22℃~24℃と前年より水温が低くなっていた。水深50mでは、若狭湾沿岸および沖合で主に20℃~22℃と沿岸は前年より低いが、沖合は前年より水温が高くなっていた。水深100mでは、山陰・若狭沖冷水域の規模が前年より縮小していた。水深200mでは、若狭湾沖で10℃~14℃と前年より水温が高い範囲が見られた。(図3)

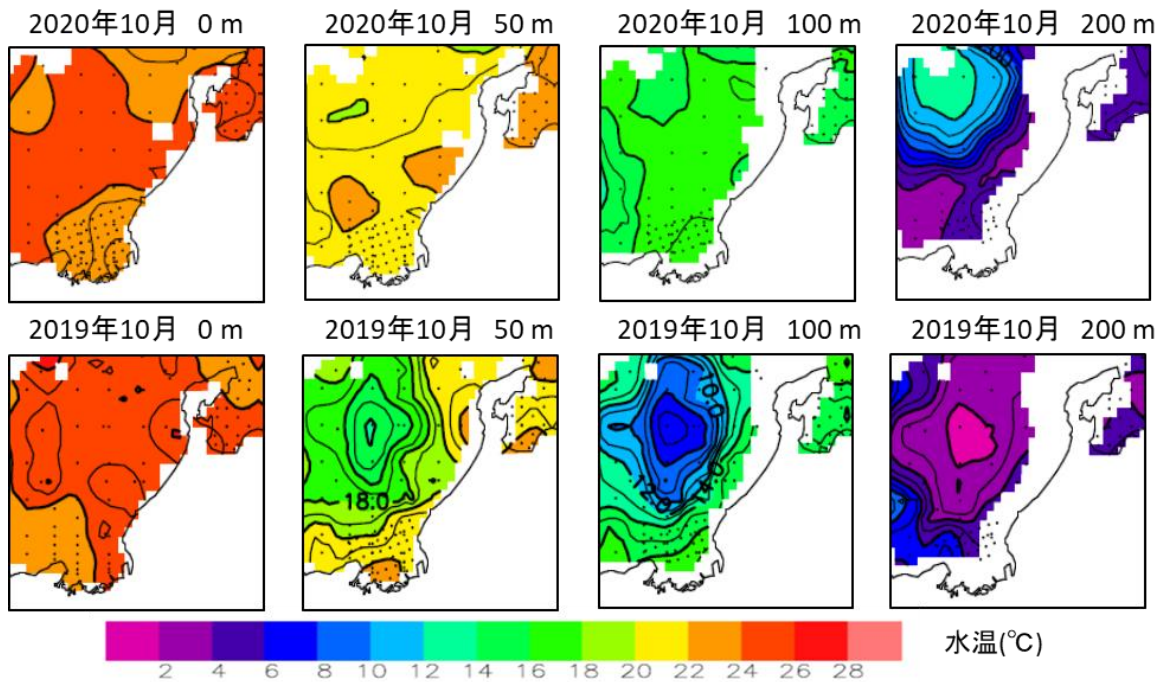


図3 若狭湾およびその周辺海域の水温分布図 (日本海区水産研究所の日本海漁場海況速報より抜粋)

## 「越前がに」の漁模様

11月6日にズワイガニ漁が解禁となり、15日までの漁獲量を取りまとめましたのでお知らせします。

○漁獲量はズワイガニ(雄ガニ)38 t(前年:43t 対前年比:88%)、セイコガニ(雌ガニ)86 t(前年:79 t対前年比:109%)とズワイガニは前年を下回りましたが、セイコガニは前年を上回りました。

○1 kgあたりの単価はズワイガニ9,713円(前年:7,167円 対前年比:136%)、セイコガニ3,363円(前年:2,980円 対前年比:113%)とズワイガニおよびセイコガニともに前年を上回りました。

漁獲量等のデータ(速報値)は福井県底曳網漁業協会より提供いただきました。 (漁業管理グループ 瀬戸 久武)

### 〔県内の漁模様：10月〕

2020年10月の県内の総漁獲量は1,220 tで、前年同月を283 t上回った。

#### 〔定置網〕

漁獲量は896 tで、前年同月を274 t上回った。ヒラマサ、サバ類、ブリ(ワラサ)等は下回ったが、サワラ、シイラ、カマス等は上回った。

#### 〔底びき網〕

漁獲量は280 tで、前年同月並みであった。アカエビ、カマス、キダイ等は上回ったが、アカガレイ、その他カレイ、タコ類等は下回った。

#### 〔釣り・その他〕

漁獲量は44 tで、前年同月を3 t下回った。ソデイカ、マダイ、タコ類等は上回ったが、キダイ、メバル類、アマダイ等は下回った。

表. 主要魚種の漁法別漁獲量(10月)

定置網	(kg)				
魚種名	2020年	2019年	平年	前年差	平年差
アジ類	25,284	25,512	46,853	-229	-21,570
サバ類	11,993	18,789	20,209	-6,797	-8,216
マグロ類	2,117	996	1,798	1,121	319
カジキ類	2,916	1,726	3,051	1,190	-135
カツオ類	2,142	557	4,350	1,585	-2,209
ブリ銘柄計	164,874	148,493	145,621	16,380	19,253
(ブリ)	181	785	587	-604	-405
(ワラサ)	2,080	5,872	4,392	-3,792	-2,311
(ハマチ)	6,104	5,357	8,125	746	-2,022
(ツバス)	124,054	114,048	118,995	10,006	5,059
(アオコ)	32,454	22,431	13,522	10,023	18,932
ヒラマサ	4,514	17,463	9,690	-12,949	-5,176
シイラ	165,766	76,243	64,548	89,524	101,219
サワラ	422,917	288,351	339,589	134,566	83,328
サケ、マス	2,070	372	2,074	1,698	-5
マダイ	1,361	4,049	3,800	-2,688	-2,438
スズキ	1,622	2,365	2,638	-743	-1,015
カマス	19,176	1,159	13,764	18,018	5,412
フグ類	8,069	580	6,866	7,489	1,203
アオリイカ	12,849	7,167	16,115	5,683	-3,265
ケンサキイカ	2,162	168	2,138	1,993	24
その他	46,507	28,703	49,894	17,804	-3,386
合計	896,339	622,695	732,998	273,645	163,342

底びき網	(kg)				
魚種名	2020年	2019年	平年	前年差	平年差
アジ類	1,477	1,096	1,184	381	293
マダイ	1,723	931	3,328	792	-1,605
キダイ	20,658	13,455	33,090	7,203	-12,433
アマダイ	1,724	911	4,104	813	-2,380

底びき網の続き	(kg)				
魚種名	2020年	2019年	平年	前年差	平年差
ヒラメ	536	790	1,060	-253	-524
アカガレイ	11,528	53,075	59,757	-41,547	-48,229
その他カレイ	14,288	18,509	31,350	-4,220	-17,062
カマス	21,949	3,546	10,400	18,403	11,549
アナゴ	5,071	4,580	7,182	491	-2,111
メバル類	1,736	1,353	1,964	383	-228
ニギス	36,387	32,722	15,620	3,665	20,767
スルメイカ	2,967	5,754	4,426	-2,787	-1,459
ヤリイカ	4,378	6,572	2,697	-2,194	1,681
タコ類	2,407	6,323	8,472	-3,915	-6,064
アカエビ	103,905	76,380	62,019	27,525	41,886
その他エビ	5,843	4,151	4,440	1,692	1,404
その他	43,237	37,076	79,309	6,161	-36,072
合計	279,815	267,223	330,403	12,592	-50,588

釣り、延縄、さし網、その他の漁法	(kg)				
魚種名	2020年	2019年	平年	前年差	平年差
マダイ	964	735	1,932	229	-969
キダイ	6,100	9,701	7,365	-3,601	-1,265
アマダイ	4,914	5,680	6,230	-765	-1,316
メバル類	1,131	2,443	2,759	-1,311	-1,627
アオリイカ	1,145	1,170	1,849	-25	-704
ソデイカ	2,291	242	6,978	2,049	-4,687
タコ類	1,012	820	1,631	193	-618
その他	26,719	26,399	52,198	320	-25,479
合計	44,276	47,190	80,943	-2,914	-36,667

全漁法	(kg)				
魚種名	2020年	2019年	平年	前年差	平年差
合計	1,220,431	937,107	1,144,344	283,323	76,087

※1 平年の値は2010-2019年の10年平均です。 ※2 ( )は銘柄、その他カレイはアカガレイ以外のカレイ類、その他エビはアカエビ以外のエビ類です。

※3 ニギスの平年値は2015-2019年の5年平均です ※4 数値は小数点以下を四捨五入しています。

### 〔近隣府県の漁模様〕

漁獲状況…石川県：10月の定置網1日あたりの漁獲量。京都府：10月にJF京都漁連舞鶴地方卸売市場へ水揚げされた定置網1日あたりの漁獲量。兵庫県：10月の余部定置網1日あたりの漁獲量。鳥取県：10月中旬～11月上旬のまき網1統あたりの漁獲量。

石川県…定置網…サワラ類6.6 t、カマス3.8 t、フクラギ・コヅクラ3.6 t、マアジ2.0 t、シイラ1.8 t、サバ1.2 t

京都府…定置網…シイラ6.5 t、ツバス6.1 t、サワラ5.3 t、カワハギ類1.3 t、アカカマス1.1 t、マアジ0.4 t

兵庫県…定置網…カワハギ183 kg、アジ69 kg、ツバス67 kg、シイラ25 kg、サワラ25 kg、スズキ9 kg、マサバ8 kg

鳥取県…まき網…ブリ類19.0 t、ウルメイワシ3.1 t、マアジ2.9 t、マイワシ2.3 t、マサバ2.1 t

(漁場環境グループ 長島 拓也)

## マサバ養殖研究について

水産試験場では、県立大学などと共同でマサバの安定した種苗生産を実現するための採卵・種苗育成技術の開発および養殖管理技術の向上のための試験を実施しています。

### 【採卵について】

マサバの採卵は5～6月に行い、成熟した親魚に排卵を促すホルモンを注射することで産卵を促します。マサバの卵は浮性卵（水に浮く卵）のため、表層の水をネットで濾すことで卵を回収します。回収した卵は受精率やふ化率などを測定することで卵質の評価を行います。卵の質や量はその後の種苗生産の成否に大きく関わってくるため、安定的に良質な卵を得る技術の開発は非常に重要です。

今年度の採卵では、親魚に与える餌に着目して試験を行いました。親魚に与える餌を配合飼料、アスタキサンチン添加配合飼料および生餌（オキアミおよびカタクチイワシ）の3区に分け、それぞれ採卵を行い卵質の評価を行いました。その結果、生餌を与えた試験区が産卵量とふ化率ともに優れており、生餌が親魚の餌に適していることが示唆されました。



図1 マサバふ化仔魚  
全長 3.4 mm

### 【種苗生産について】

マサバの受精卵は、採卵後2～4日程度でふ化します。ふ化直後の仔魚は3～4 mmほどの大きさ（図1）で、ふ化後2日程度で口が開き、3～4日で初期餌料であるシオミズツボムシを食べ始めます。その後、成長に合わせてアルテミアや配合飼料を与えて飼育します。マサバは成長が早く、水温21～25℃では、20日で平均全長約4 cm（図2）、45日程度で10 cmを超える大きさにまで成長します。

今年度は、平均全長113 mmの種苗を1.3万尾生産しました。今後は、早期採卵の技術開発および餌料や飼育環境の最適化を目標として試験を行っていきます。



図2 マサバ稚魚 20日齢  
全長 39.0 mm

### 【養殖試験について】

マサバ養殖では高水温期や低水温期のへい死が問題となっており、その対策として餌料試験を実施しています。その内容は、へい死率、血漿中のストレスホルモン濃度およびリゾチーム活性などを指標として、給餌方法の検討および免疫賦活剤の効果の検証を行っています。これらの結果をもとに、魚体にかかる負担を軽減する給餌方法を模索しています。

（育成技術グループ 児玉敦也）